

第4章 協働プロジェクト

環境問題に取り組むためには、環境保全活動への関心や参加意欲の向上、環境保全活動を担う人材や組織の発掘・育成などが求められます。こうしたことから、第2次環境基本計画の中で市民・事業者と市が協働して取り組む「協働プロジェクト」を位置づけています。

「望ましい環境像」の実現に向けて協働プロジェクトを推進することにより、環境問題への関心の拡大、環境活動への参加拡大、地域コミュニティの活性化、町会・自治会と環境保全活動団体の連携拡大を図ります。

協働プロジェクトの評価は、市で把握できる市民・事業者との協働による活動実績（評価指標として参加者数、活動箇所数や参加世帯数など）及び活動状況などについて把握し、5つのプロジェクトごとに結果をとりまとめ評価します。

第1節 里山復活プロジェクト

私たちの生活の身近な場所にある里山・谷戸や斜面緑地など、貴重なみどりの機能を回復することが重要です。地下水かん養や生物多様性の保全など、みどりや水辺の持つ多面的機能の回復をめざします。

	令和5年度実績
評価指標	「上川の里」特別緑地保全地区整備（活動箇所1、参加者延べ1,000人 前年比445人増、保全活動協定締結団体数8団体 前年度比2団体増） 斜面緑地保全区域維持管理ボランティア（活動箇所1、参加者延べ23人 前年比6人増） 公園アドプト制度（活動箇所20、登録者1,266人） 館さとやまくらぶ（活動箇所1、会員数22人 前年比1人増）

< 市内環境調整委員会での総括評価と今後の展開 >

地域の緑地や公園などの自然環境を地域住民や NPO、企業などの協力により保全・維持管理活動を実施した。また、一部緑地については、環境教育・環境学習の場としても有効に活用した。

今後は、高齢化に伴う活動団体や担い手の減少が懸念されるため、協働先の拡大や定着が求められる。また、活動に参加していない地域住民や来訪者への活動の周知、民間企業の活動呼び込みが求められる。

< 環境推進会議の意見 >

多くの里山で活動が行われており、環境学習の場所としても活用している。

里山や里山風景を保存している公園などで、管理の度合いが異なるため適正な管理に力を入れてほしい。また、アドプト活動では、団体への用具の支給のみでなく、イベントや講座を実施する際のPR支援などが望まれる。



第2節 生ごみ資源化促進プロジェクト

「循環型都市八王子」の実現には、一層のごみの減量・資源化が重要です。生ごみの減量・資源化のため、地域の特性に応じた生ごみの地域循環を促進します。

	令和5年度実績
評価指標	ダンボールコンポスト講習会（参加者516人 前年比206人増） コンポスター講習会（参加者17人 前年比5人増） 生ごみ減量化処理機器等の購入費補助個数（1,113個 前年比9個増）

<庁内環境調整委員会での総括評価と今後の展開>

令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられたことから、例年より講習会の開催回数を増やし受講者の募集を促したところ、参加人数の増加につながった。

今後は、地域特性に応じた取組みを進めるため、環境学習室「エコひろば」と連携し、講習会受講者の募集や生ごみリサイクルリーダーの養成に力を入れる。また、各講習会以外にも出前講座や校内活用授業を活用して、ダンボールコンポストを継続して利用してもらえるように周知啓発を行う。

<環境推進会議の意見>

地域で簡単に取り組めるダンボールコンポストは、生ごみを資源化する大事なツールのひとつであるが、取り組んでいる市民の割合が少ないと思われるため、積極的な周知や当初の目標に対して現状がどのように進行しているのかを把握し、見直し等を含め取り組むとよい。



第3節 省エネ応援プロジェクト

地球温暖化を防止するためには、一人ひとりがCO₂排出量の削減に取り組んでいくことが重要です。家庭や職場、地域などで省エネ知識を高め、簡単で継続的に取り組める省エネ行動を応援します。

令和5年度実績	
評価指標	家庭における省エネ行動の推進 (八王子市エコアクションポイント制度の会員数14,680人 前年比9,807人増)

<庁内環境調整委員会での総括評価と今後の展開>

再配達によるCO₂排出削減を目的とした置き配バッグ事業により会員数の増加を達成した。

今後は、会員が本取組へ継続して参加していただけるよう、ナッジ理論の活用など様々な手法を検討する。

<環境推進会議の意見>

置き配バッグ事業を活用して会員数を増加させたことは評価される。地球温暖化防止のためには市民の行動が非常に重要になるため、はちエコポイントのアクティブユーザーの把握・分析などを行い、はちエコポイント制度のより良い見直しにつなげてほしい。



第4節 環境教育サポートプロジェクト

環境問題を解決していくためには、一人ひとりが問題を認識・理解し、行動することが重要です。小・中学校における総合的な学習の時間などを活用し、学校での環境教育を支援します。

	令和5年度実績
評価指標	環境教育支援事業（実施28校、授業を受けた児童・生徒2,495人 前年比231人増）
	八王子浅川水辺の楽校（授業を受けた児童・生徒697人 前年度比174人増）
	八王子市小学校科学教育センター事業（授業を受けた児童・生徒72人 前年比9人減）
	自然観察会（参加した児童・生徒46人 前年比21人増）

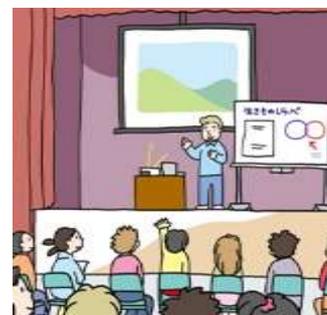
<庁内環境調整委員会での総括評価と今後の展開>

環境教育支援事業や浅川水辺の楽校の実施により、本市の豊かな自然環境とふれあう子どもの増加につなげた。

今後は、市民ニーズの把握による講座内容の充実化、学校とのさらなる連携による環境教育を推進する。また、支援者・協力者の高齢化に伴い人数が減少傾向であるため、新たな支援者の開拓など支援者・協力者の増加を図る。

<環境推進会議の意見>

小・中学生への環境教育は非常に重要な取組である。環境教育支援事業に参加した児童数は昨年度より増加したが、支援者不足により実施できなかった事例も発生しており、早急な人材育成が望まれる。また、様々な所管が環境教育事業を実施しているため、統合的に事業を進められるとよい。



第5節 地域の環境美化プロジェクト

まちの美化を進めるためには、モラルやマナーを守り、都市の美観を保持することが重要です。市民・事業者が、清潔で美しい地域の環境づくりに取り組めるよう支援します。

令和5年度実績	
評価指標	道路アドプト制度（活動団体62団体 前年比1団体減）
	公園アドプト制度（活動団体262団体 前年比9団体増）
	水辺の水護り制度（活動団体37団体 前年比1団体減）
	小田野中央公園の維持管理（活動参加者延べ759人 前年比11人増）
	違反屋外広告物除去活動（活動参加者延べ133人 前年比25人減）
	地域モデル花壇支援事業（支援団体5団体 増減0）
	コミュニティ花壇創出事業（支援団体3団体 前年比1団体増）
	駅前花づくり事業（活動参加者46人 前年比8人減）
	戸吹清掃美化委員会（参加者延べ192人 前年比増減0）
	慰霊塔清掃（活動参加者数139人 前年比21人減）
	老人ホーム跡地美化（活動参加者延べ653人 前年比92人増）
	みんなの町・川と町の清掃デー（活動参加者19,185人 前年比483人増）
	クリエイトホール植栽ボランティア（活動参加者387人 前年比170人増）
北野清掃美化活動・東放射線アイロード花植え（活動参加者延べ181人 前年度比34人減）	

<市内環境調整委員会での総括評価と今後の展開>

高齢化等に伴う活動終了がある一方で、新規参加などによる活動団体数などの増加が見られた。市民ボランティアの高齢化と新規加入確保が課題であり、今後も継続して幅広い年齢層の市民や企業への周知を行うほか、介護予防ポイント制度（てくぼ）などのポイント制度と連携したインセンティブ創出を検討する。

<環境推進会議の意見>

多くの市民ボランティアが、様々なフィールドで美化活動を行っていることは、高く評価される。市は、今後も地域の環境づくりに取り組めるよう支援し、ボランティアの力を活かしていくことが重要である。

